

【フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 兵庫県 |
|-------|-----|

・学校の概要(平成15年4月現在)

| 龍野市立小宅小学校(学力向上フロンティアスクール) | | | | | | | | | | |
|---------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|--|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 | |
| 学級数 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 | 4 | 2 | 25 | 31 | |
| 児童数 | 145 | 145 | 139 | 113 | 131 | 137 | 9 | 810 | | |

・研究の概要

1. 研究主題

自らの課題に向かって意欲的に学ぼうとする子どもの育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年 算数
(子どもの理解度に差が出やすい教科であるため)

(2) 年次ごとの計画

平成
14
年
度

テーマ
きめ細かな指導による基礎・基本の定着ができる学習環境作り

仮説
基礎・基本の定着を図るために算数教室や総合学習の部屋を創設したり、中学年でハーフサイズの少人数授業を実施したりする。学ぶ機会や環境の充実が児童の「わかる喜び」につながり、自ら課題を持ち、学ぶことができる。

研究内容・方法
学習環境作り
・算数教室の創設
・総合学習室の創設
・「基礎・基本の時間」の創設
・中学年の算数科においてハーフサイズによる少人数授業を実施
・評価基準の見直し
・「学習の約束」の作成

平成
15
年
度

テーマ
きめ細かな指導による基礎・基本の定着が出来る学習指導のあり方

仮説
基礎・基本の定着を図るために「個」を大切にしたい授業展開をすれば、これまでの「基礎・基本」の定着に加えて「できる喜び」が生まれる。さらに、自ら課題を持ち、意欲的に学ぶことができる。

研究内容・方法
・総合科で算数の習熟の程度に応じた授業公開(3年)
・学び方のシステム作り

平成
16
年
度

テーマ

きめ細かな指導による基礎・基本の定着ができる学習システムの徹底

仮説

基礎・基本の定着を図るために、「知的好奇心」を大切にしたい授業展開をすれば、これまでの「基礎・基本」の上に「学ぶ喜び」が生まれる。さらに、絶えず自らの課題に向かって意欲的に学び続けようとすることができる。

研究内容・方法

- ・算数科で習熟の程度に応じた授業公開（全学年）
- ・発展教材や補充教材を活用した個に応じた指導の徹底

(3)研究推進体制

学力向上フロンティア事業推進委員会

(メンバー：校長 - 教頭 - 各学年代表6名 - 加配教員2名計10名)

・平成15年度の成果及び課題

1. 研究の成果

- ・算数において児童の希望による習熟度に応じた学習を3年生以上で実施した。
- ・「習熟度に応じた学習」の実施後のアンケートでは、八割が楽しかったと回答し、九割が選んだコースが自分に合っていたと回答している。
- ・低学年の授業に交流学級の高学年の担任が指導に入る、同室複数指導を週2時間実施した。そこでは、交流学級の先生ということで学校生活の面でも指導がしやすく兄弟学級の良さがでた。
- ・学期毎に計算・漢字の到達度テストを行い、次学期・次学年の指導に役立てることが出来た。

2. 今後の課題

- ・総合的な学習の時間の成績は文章表記で行うが、算数科の中で習熟度に応じた学習に取り組むと評価規準を作るのが難しい。
- ・2学級を解体して4人で指導するパターンでは、授業の進度に合わせて実施すれば、教師の数が不足し、4学級解体して6人で指導するパターンでは、児童の希望通りにすると1グループ40人以上が出て人数超過となる。習熟が不足気味のグループを少人数指導したいが、できないのが大規模校の課題である。
- ・低学年での同室複数指導では、交流学級の担任が入るため、体育的、音楽的な行事や時間割の変更の場合は実施しにくい面もあった。
- ・新学習システム（少人数によるきめ細かな指導）が導入している学年では担当加配教員が中心となって到達度テストやアンケートの作成・集計が行われやすいが、導入されていない学年では、正確性に欠ける面もある。

・ 学力把握のための学校としての取組

- ・ 毎学期末に計算・漢字の到達度テストを行い、次学期・次学年の指導に生かすようにしている。
- ・ 県の学習状況調査（５年）の実施をして、国及び県の状況との比較をする予定である。（３月中旬）

・ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ １１月１４日に揖龍地区を中心に約１００名の参加者のもとに中間発表を実施した。そこで、スマートボードを活用した授業及び研究発表の中で、参加者や地区の先生から来年度に購入して、授業や発表に効果的な機器の活用を提案した。
- ・ １６年度に算数科において、全学年公開授業の予定である。
- ・ HPを作成した。<http://oyakesyo.city.tatsuno.hyogo.jp/>

次の項目ごとに該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

| | | | | |
|----------------------|----------------------------|-------------------|------------|----------|
| 【新規校・継続校】 | １５年度からの新規校 | １４年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | ６学級以下 １３～１８学級 ２５学級以上 | ７～１２学級 １９～２４学級 | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導 一部教科担任制 | T・Tによる指導 その他 | | |
| 【研究教科】 | 国語 生活 体育 | 社会 音楽 その他 | 算数 図画工作 | 理科 家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 有 | 無 | | |